

令和6年度 第3回県立スポーツ施設のあり方検討会 議事要旨

日時：令和6年10月18日（金）15:30～17:30

場所：高知共済会館 3F大ホール 桜

出席：委員8名中8名が出席（1名オンライン）

出席委員：坂本委員、中城委員、前田委員、町田委員、丸委員、森戸委員、山崎委員、渡邊委員

次第：（報告事項） 視察報告について

（議　　事） 県民体育館の再整備等における考え方の方向性

1 開会

部長挨拶

オリンピック・パラリンピック共に本県出身の選手が活躍を見せ、メダリストも誕生しスポーツの魅力を再認識した。今回の検討会では、現地の視察にも行き、県民体育館の整備の方向性を示しながら、議論を進めたい。

2 報告事項

報告事項について、資料を使用して事務局が説明。

●丸委員

・エフピコアリーナふくやま

「するスポーツ」施設の色合いが強い。キッズルームや遊具などが充実しており、子どもが常に集まる環境が良い点だと感じた。また、指定管理者が市内の他の施設を含めて管理しており、効率的な運営が印象的。

・Gライオンアリーナ神戸

全国有数の「みるスポーツ」（エンターテイメント）重視の施設。「みるスポーツ」を重點化した場合は「するスポーツ」と「みるスポーツ」の両立は難しいと感じた。

●前田委員

・カクヒログループスーパーアリーナ（青森市）

室内に大きなキッズスペースがあり、こういうものがあれば高知でも人が集まると思う。運営会社が民間企業の集合体であり、大半が地元の企業。民間のノウハウを活かしたイベント開催が多く計画されている。

・新秋田県立体育館（仮称）

B1のプロバスケチームがあり、Bリーグの基準を優先的に計画を進めている。PFI事業

であり、民間のノウハウを有効に活かし、収益の見込み等導入可能性調査をしたデータを基に、何パターンか用意した案を検討会に反映していた。高知県でも情報収集の面は取り組んでいただきたい。観客席数の議論で、できるだけ大きい施設という案もあった中で、事前にプロモーターから、コンサートに必要な席数を確保しても秋田という立地での誘致の難しさについて指摘があり、6,000人規模に落ち着いた経緯等貴重な意見をいただいた。

「視察その3」の太田市、神栖市の体育館の運営はどのような形態か。

○事務局

- ・太田市総合体育館
 - プロチームの子会社が指定管理者
- ・かみす防災アリーナ
 - PFI事業。清水建設が代表となり、グループ会社が運営を担当している。

●前田委員

県内にはアリーナスポーツのチームがない中で、民間からチームができる動きがあるのか等の協議は必要ではないか。また、新たな施設がスポーツ以外の文化的な要素で、例えば「よさこい」利用も想定されるのであれば、協議し検討していく必要がある。

●町田委員

イベント時の飲食はどういう形態であったか。

○事務局

店舗として常設しているところもあったが、基本的にはイベント時のみ。多くの施設がキッチンカー利用が主で、それ用のスペースも計画に入っていた。

→●前田委員

福山では、キッチンカー用のスペースはもちろん、イベント用の電源まで考えられていた。

→●町田委員

キッズエリアを充実させることと飲食はセットが有効だと思う。

●中城委員

昨今、公共施設内に飲食等の店舗はが定着しにくい傾向があるため、キッチンカーでの対応等がスペースの有効活用にもつながるのではないか。

●渡邊委員

視察先のハード面は障害者が行きやすい施設という印象。開館している施設で障害のある方の利用率は聞いていますか。ソフト面も気になるところ。

○事務局

各施設に確認する。

→●丸委員

福山は、閉所に閉じ込められパニックになることを防止する目的として、障害者の方からの「エレベータの扉にガラスを取り入れ、外が見えるようにして欲しい」という声をいかした配慮があった。

別件：11/17にBリーグプレミアのライセンス交付が行われたので記事を共有する。

●坂本委員

視察先は、プロチームがある施設。プロチームがない施設の運営はどうなのか。

○事務局

プロチームのない施設については今後情報収集する。

→●前田委員

アリーナ化を目指す場合は、コストではなく収益化の意識が必要。収益化を考えた場合、高知にプロチームをという話題になり、最初からホームで活動することは難しいかもしれないが、外から呼べるような環境を整備しておくことも重要。環境整備とチームができるることは別の話かもしれないが、アリーナスポーツ（B、V、T等）関係者とも協議しておくことが重要ではないか。

●山崎委員

コート数は現状以上の確保を希望し、こども達が集まる環境との両立、駐車場問題等をクリアした総合的な施設を希望。

●森戸委員

観光面でいうと、集客はコンテンツ次第でもあり、利便性、観光地や宿が近い等も重要な要素。

イベントの誘致は、誰が担うのか。パターンというのはあるのか。

○事務局

誘致については、運営の形態にもより、視察先を参考に整理したい。

→●前田委員

集客の点では、視察先の事例を参考に、指定管理というよりは、PFIにより民間のノウ

ハウを生かした運営の方が収益化に繋がっている印象。

●町田委員

他県と比べて高知県は子どもたちの意見を反映し事業を進めてきている。将来施設を利用していくのは今の若者がメインであり、子どもたちの意見を募集することも大切なのはでは。

また、駐車場問題は、旧南中高を臨時駐車場にして連携することは可能か。

○事務局

駐車場の件で、旧南中高はスポーツ以外の活用については検討中。日常利用での連携はハードルが高いかもしれないが、イベント時は活用の可能性はある。その他臨時駐車場の候補はある。

こどもたちの意見募集については、募集の仕方も含めて今後検討したい。

●坂本委員

再整備は、一時避難を想定する場合、①津波の想定される高さよりも高いフィールドの整備、もしくは②2階以上の避難を前提に収容人数を割り出す等、基本方針で考えたらいいのでは。

また、交通の利便性はまちづくりでは重要で、15分圏内という目安は将来の街が縮小した時を想定しても望ましいポイント。災害との兼ね合いが今後の課題。

○事務局

理想は、メインフロアが高い位置に設定されていることであるが、現実は難しい状況。アドバイスのとおり2階以上の利用の仕方を十分に検討していきたい。

●中城委員

事務局が説明した基本方針等の考え方には高知市も賛成する（県と市の役割分担）。

●前田委員

利用者のアンケートは年代別に分けるものか。

○事務局

現時点では年齢別に集計はしていないが、年代別の回答欄があるので、まとめることは可能。

●前田委員

他県の新しいアリーナの計画には、若者によるワークショップ等開催しているところもある。今の県民体育館の利用者以外も新たな体育館ができたときには利用者となりうるので、広い範囲で意見集約することも重要。

●渡邊委員

障害者に配慮したユニバーサルなデザインを取り入れた施設を希望する。

○事務局

今回の資料には「障害者の」という言葉は出てきていないが、障害のある方を含めてという意味合いは含んでいる。今後の示し方については相談しながら表現をしていく。

●山崎委員

既存地に必要な機能をすべて盛り込むことは厳しい。アスパル高知のグラウンドの活用等も含めて高知市と協議してベストな施設を希望する。

○事務局

アスパル高知のグラウンドについてはまだ調整しきれていないが、今後高知市と協議し整理する。

●前田委員

他県の事例は基本新たな候補地に建替え後、旧体育館を解体し、体育館の休止期間を出さない取組をしている。今回県民体育館の既存地に建替えた場合、休止期間が2～3年程度発生すると思うが、整理しているか。

○事務局

利用者に大きく迷惑がかかるのは承知している。周囲の類似施設を活用しながら進めていくことになる。今回の計画も早めに周知し、利用団体と調整していく。

●丸委員

質問は2点。1つめは、旧南中高に体育館ができるまでプレハブを造り、完成まで利用してもらうことは可能か。

○事務局

旧南中高にはスポーツ以外の計画が出てくる可能性もあるので、現状では難しいと思う。

●丸委員

2つめは、既存地では旧消防署敷地を入れても、今の機能以上に拡張し、さらにはエンタメ要素もいれるというのは縦に造るしかなくなり、かなり厳しいのではないか。第一回検討会の資料でも用途地域の懸念があると説明も受けている。

○事務局

半分から東が住居地域のため、現状と同程度の高さにしかできない。西側は商業地域のため、高さを出すことができる。少しいびつな形の施設を今のところイメージしている。

●森戸委員

観光の視点でいうと、賑わいが欲しいので、地域の飲食店と協力し、イベントやコンテストで盛り上げていくことが重要ではないか。既存地では、新たな施設にキッチンカーが集まるスペースがないかもしれない、街中の飲食店で楽しんでもらうような取組はまち全体の賑わいに繋がり、観光の視点としても良い。

●渡邊委員

障害者スポーツセンター以外で、障害者と一般利用者が共存できている体育館があれば紹介してほしい。運用方法とか、ソフトの部分。他県の情報が知りたい。

○事務局

情報収集し、共有する。パラスポーツは工夫が必要なことが多いので、情報収集の中で他県の事例を参考にしたい。

●山崎委員

多目的グラウンドの件は、検討していただき感謝している。今回は体育館の整備ということで、この計画のタイミングかどうかはわからないが、また別途でも検討頂けたらと思う。

●中城委員

高知県は車社会であるが、今回の計画では施設機能の取捨選択が必要であり、駐車場の規模（駐車台数）については、既存地が比較的街中にあるので、周辺の駐車場や公共交通機関との兼ね合いの中で検討が必要。

●坂本委員

今後サウンディング調査は実施予定あるか。

○事務局

計画の策定までにいろんな調査が今後も必要と感じている。

●坂本委員

ジャンル別のニーズを知ることも重要で、そのニーズを聞いたうえで、計画を見直すことも必要。

●前田委員

秋田県や青森市もサウンディング調査は実施し、計画に反映していた。あり方検討会の中では、踏み込んだ協議まではできないので、幅広い意見を基にあり方を検討していく。次の第4回が最後の検討会になるが、これまでの委員からの意見等を整理し、次年度の次のステップで、あり方検討会で出た意見を繋げていく。

●森戸委員

プールはどうなるのか。

○事務局

現状では今後の活用について決まっていない。重点ポイントの中でも示した通り、まずは体育館の再整備を中心に検討していく。

●丸委員

太田市総合体育館の旧体育館についての情報が知りたいので次回までに調査をお願いする。

3 閉会